



株式会社浅沼組

2021年3月期 第2四半期決算説明会

2020年11月20日

イベント概要

[企業名]	株式会社浅沼組
[企業 ID]	1852
[イベント言語]	JPN
[イベント種類]	決算説明会
[イベント名]	2021 年 3 月期 第 2 四半期決算説明会
[決算期]	2020 年度 第 2 四半期
[日程]	2020 年 11 月 20 日
[ページ数]	27
[時間]	15:30 – 16:19 (合計：49 分、登壇：37 分、質疑応答：12 分)
[開催場所]	103-0026 東京都中央区日本橋兜町 3-3 兜町平和ビル 3 階 第 3 セミナールーム (日本証券アナリスト協会主催)
[会場面積]	145 m ²
[出席人数]	
[登壇者]	4 名 代表取締役社長執行役員 浅沼 誠 (以下、浅沼) 代表取締役専務執行役員 社長室長 山腰 守夫 (以下、山腰)

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

執行役員 技術研究所所長

石原 誠一郎 (以下、石原)

執行役員 社長室次長

八木 良道 (以下、八木)

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



登壇

司会：それでは、定刻でございますので、ただ今から、株式会社浅沼組様の2021年3月期、第2四半期決算説明会を開催いたします。

最初に、会社様からお迎えしてございます4名の方々をご紹介申し上げます。まず、代表取締役社長執行役員、浅沼誠様でございます。

浅沼：浅沼です。よろしくお願いいたします。

司会：続きまして、代表取締役専務執行役員、社長室長、山腰守夫様でございます。

山腰：山腰です。よろしくお願いいたします。

司会：続きまして、執行役員、技術研究所所長、石原誠一郎様でございます。

石原：石原です。よろしくお願いいたします。

司会：続きまして、執行役員、社長室次長、八木良道様でございます。

八木：八木でございます。よろしくお願いいたします。

司会：本日は、この後、浅沼社長様と山腰専務様からご説明をいただきます。ご説明終了後に質疑応答の時間を設けておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは最初に、浅沼社長様から、よろしくお願いいたします。

浅沼：ただ今ご紹介いただきました、社長の浅沼誠です。よろしくお願いいたします。

本日はご説明いたしますのは、初めに、建設業を取り巻く事業環境、次に、2021年3月期、第2四半期決算の概要、中期3カ年計画の進捗、株主還元、コーポレート・ガバナンス、社会貢献活動となります。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



建設業

新型コロナウイルス感染症の拡大は、インバウンドの消滅や個人消費の落ち込み等景気の悪化を招き、民間建設投資は、住宅需要の低下や設備投資の中止や先送りが見られる一方、生活様式の変化による物流施設等の需要は堅調に推移しました。公共建設投資は国土強靱化政策により、度重なる自然災害への防災・減災対策や老朽インフラ対策、災害の復旧・復興需要も含め底堅く推移しました。今後コロナ禍が長引くようであれば、設備投資の更なる先送りや抑制などによる建設投資の減少が懸念されます。

建設投資の推移

単位：兆円



3

3 ページをご覧ください。新型コロナウイルス感染症の影響により、インバウンドの消滅や個人消費の落ち込みにより、民間建設投資は住宅需要の低下をはじめとして、設備投資の中止や延期が散見されてきている一方、生活様式の変化を受け、物流施設といった設備投資は堅調に推移いたしました。

公共建設投資は、国土強靱化政策により、度重なる自然災害への対策として、復旧、防災、減災、老朽インフラ対策など、底堅く推移いたしました。

今後、コロナ禍が長引くようであれば、これに伴う設備投資の先送りや抑制などによる建設投資の減少が懸念されます。

下のグラフは、直近の建設投資を表したものです。2019 年度までは順調に増加してきましたが、コロナ禍の影響により、特に民間投資の落ち込みが予想されており、受注競争は今後厳しさを増すものと思われ、工事採算の悪化には十分注意が必要と考えています。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

(単位：億円)

	2019/3 第2四半期 実績	2020/3 第2四半期 実績	2021/3 第2四半期 計画	2021/3 第2四半期 実績	前期比	計画比
受注高	695	699	630	563	△136	△67
売上高	549	687	566	634	△53	68
営業利益 (利益率)	15 2.8%	34 4.9%	13 2.3%	22 3.4%	△12 △1.5P	9 1.1P
親会社株主に帰属する 四半期純利益 (利益率)	10 1.8%	22 3.2%	7 1.3%	12 2.0%	△9 △1.2P	5 0.7P

4

続きまして、山腰から、2021年3月期、第2四半期決算の概要についてご説明させていただきます。

山腰：山腰です。よろしくお願いいたします。

4ページをご覧ください。まず、この中間の実績についてご説明いたします。表の右から3列目、緑で塗ってありますが、実績を記載しております。その右が前期比、その右が計画比です。

ご覧のように、前期比では受注、売上、利益ともに減少しました。計画比では、受注は下回りましたが、売上と利益は上回りました。

項目別に簡単に申し上げますが、一番上の受注高につきましては、563億円でした。前期比で136億円減少しております。通期の受注の計画は、前期比で222億円減少する計画としておりますので、通期計画に対する中間時点での進捗率は44.6%ということで、足取りとしてはそれほど悪くないと思っておりますが、計画比では新型コロナウイルス感染症の影響で案件の中止や、あるいは先延ばしがあった結果、67億円下回ったということでありませう。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

2行目の売上高でございますが、634億円でした。前期比では完工高、完成工事高が減少し、53億円減少しております。計画比では、想定以上に工事の進捗が進んだこともありまして、68億円上回りました。

その下の営業利益ですが、22億円、3.4%の営業利益率でした。これは前期比で、今申し上げました完成工事高が53億円の減少し、記載はしておりませんが、完成工事粗利益率が9.5%で、前期比では0.8ポイント低下したこともあり完成工事粗利益で10億円減少したためです。さらに、システムの関連費用等で販管費が2億円増えましたので、営業利益としては12億円減少したということであります。

計画比では、これも先ほど申し上げましたけれど、完成工事高が計画を68億円上回ったこともありまして、営業利益としては9億円上回ったということであります。

一番下の四半期純利益は12億円。前期比では9億円下回りまして、計画比では5億円上回ったという結果でございます。

中期3ヵ年計画 連結業績進捗状況 ①



(単位：億円)

	2019/3 中期計画	2019/3 実績	2020/3 中期計画	2020/3 実績	2021/3 中期計画	2021/3 計画	中期計画 3ヵ年 平均	実績及び 今期計画 平均
受注高	1,300	1,537	1,330	1,483	1,360	1,261	1,330.0	1,427.0
売上高	1,295	1,357	1,366	1,415	1,389	1,345	1,350.0	1,372.3
営業利益	49	57	62	66	72	53	61.0	58.7
親会社株主に帰属する 当期純利益	32	42	40	43	47	40	39.7	41.6

(中期計画の数値は、2018/5/11発表時点)

続きまして、5ページをご覧ください。前々期、前期、今期中の中期3ヵ年計画上の業績の進捗状況を記載しております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



表の左端、2019年3月期中計の計画値、その右が同実績、その右が2020年3月期中計の計画値、そして、その右が同実績です。

この2期においては、ご覧のように全ての項目において実績は中計の計画値を上回りました。真ん中やや右の2021年3月期、今期中計の計画値、その右の橙色のところは今期の計画でございますが、新型コロナウイルス感染症の影響もありまして、今期の計画は中計を下回るとしております。現段階では、この今期の計画は達成できる見通しであります。

参考までに、右2列、そこに中計の3カ年平均と、過去2期の実績、それから今期は今申し上げたように計画を達成見通しで平均を出しますと、受注、売上、当期利益については、平均では中計の数値を上回る見込みであります。ただ、営業利益につきましては、平均では中計の数値を下回るという見込みであります。

中期3カ年計画 連結業績進捗状況 ②



中期計画の主な経営指標（最終年度の2020年度連結）

営業利益率	5.0% 以上
自己資本利益率(ROE)	10.0% 以上
自己資本比率	40.0% 台
投下資本利益率 (ROIC)	3カ年とも資本コストを上回る

	2019/3 中期計画	2019/3 実績	2020/3 中期計画	2020/3 実績	2021/3 中期計画	2021/3 計画	中期計画 3カ年 平均	実績及び 今期計画 平均
営業利益率	3.8%	4.2%	4.6%	4.7%	5.2%	3.9%	4.5%	4.3%
自己資本利益率 (ROE)	9.0%	11.5%	10.6%	11.3%	11.4%	10.0%	10.3%	11.4%
自己資本比率	36.0%	36.6%	41.0%	38.0%	47.0%	43.0%	41.3%	40.5%
投下資本利益率 (ROIC)	7.0%	8.1%	8.4%	9.1%	9.2%	7.0%	8.2%	8.8%
資本コスト (WACC)	5.0%	5.1%	5.0%	6.0%	5.0%	6.0%	5.0%	5.4%

(中期計画の数値は、2018/5/11発表時点)

6

続きまして、6ページをご覧ください。中期3カ年計画の業績の進捗状況でございますが、上の表に経営指標として、営業利益率を5.0%以上、ROEを10.0%以上、自己資本比率を40.0%台、投下資本利益率、ROICでございますが、3カ年とも資本コストを上回るようにしようということで、計画を立てております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



それに対して、下の表が結果と見込みでございます。右から3列目が今期の計画値。計画については、この指標も達成できるものと考えております。それから、右端が2期の実績と、今申し上げた今期の計画の平均でございますが、一番上の営業利益率につきましては、今期の計画が3.9%、右端の実績及び今期計画平均が4.3%で、最終年度5%以上にする計画ではございましたが、それに届かない見込みでございます。

2行目のROEにつきましては、今年度、10.0%の見込み。平均でも11.4%ということで、これにつきましては、10%台を達成できる見込みでございます。

それから、その下の自己資本比率でございますが、今期の見込みが43.0%、平均でも40.5%で、40.0%台は確保できるということでございます。

それから、ROICと、その下にWACCを記載しておりますが、ご覧のように2019年3月期、それから2020年3月期、それから今期の計画、いずれにおきましても、ROICがWACCを上回るという見込みでございます。

営業利益について、先ほども申し上げた額、あるいは率で苦戦しているということではございません。

中期3ヵ年計画 資金投入計画



3年間で **200億円** の資金投入

	中期計画	投資 実績・予定
■ 投資計画		
◆技術・システム関連への投資	50億円	20億円
◆新領域（海外・新分野）への投資	50億円	15億円
■ 使途計画		
◆協力会社との連携強化を目的とした支払いの現金化	100億円	145億円
合計	200億円	180億円

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



続きまして、7 ページをご覧ください。

この3カ年計画で200億円の資金投入計画しております。中身としましては、下の表にございますけれど、右から2列目で、技術・システム関連で50億円、新領域で50億円。それから、協力会社との連携強化を目的とした支払いの現金化で100億円。合わせて200億円の計画でございます。

現状の資金投入の実績予定では、技術・システムで20億円、これについては後ほどご説明をいたしますが、技術研究所の増改築で7億円。それから、Ai-MAP SYSTEMという新しいシステムの開発で2億5,000万円。それから、BIM・CIM、その他の開発で2億5,000万円。それから、基幹システムの開発で8億円の投入をいたしました。

Ai-MAP SYSTEMのさらなる高度化ですとか、その他の新しいシステムの開発については、現状、来期以降になる見込みであります。

それから、新領域につきましては、50億円の計画に対して15億円の見込みであります。これも後ほど説明いたしますが、M&Aで5億円、それから、リニューアルの新しいブランドで10億円でございます。

M&Aにつきましては、引き続き検討中ではありますが、コロナの影響でなかなか話が前に進まないということで、こういった見込みになっております。

それから、支払いの現金化につきましては、計画は100億円。それから、これはもう既に実施をいたしました。投入額としては145億円ということで、45億円増えております。計画時点では、協力会社への支払いの現金化比率を60%から90%にするという計画でございましたが、現在は全額、100%を現金化したということもございまして、投入が計画より45億円増えたということでございます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



技術研究所 増築、改修（2019年3月末オープン）

1	研修エリアを拡充 ・若手社員や協力会社の技術者の研修、体験型教育の実施	
2	免震・制震技術の高度化 ・地震モニタリングシステムを設置した制震構造 ・試験機器の更新	
3	多目的実験スペースの設置 ・全天候対応の大型実験スペース	
		
全景		3 増築棟 自然光照明を用いた多目的実験スペース

続きまして、8 ページをご覧ください。技術・システムで資金投入として、技術研究所の増築、改築をいたしました。今申し上げたように、技術研究所では、この3カ年で7億円投入しましたが、それ以前にも4億円投入をしておりますので、合計で11億円増改築に投入をしたということになります。

1、2、3とございますが、若手社員ですとか、協力会社の技術者の研修をするための研修エリアを増やしました。それから、地震モニタリングシステムですとか、試験機器の更新をいたしまして、免震・制震の技術の高度化を図りました。それから、多目的実験スペースの設置もいたしまして、いろいろな実験を今しておるということになります。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

Ai-MAP SYSTEM

作業所における熟練者の技能伝承と生産性向上を目的に開発

内 容	特 徴	効 果
技能動作解析	GPSカメラやセンサ、を熟練者に取り付け、または、動画撮影により、動作・行動・音声をデータ化し分析	技能伝承
インフラ通信管理	通信システムの活用による遠隔地から現場の生産管理の実施と効率化を促進	生産性向上

続きまして、9 ページをご覧ください。これも技術システムの資金投入をした一つでございますが、Ai-MAP SYSTEM という当社独自のシステムを開発しております。

このシステムの目的は、その表の上段にもございますように、熟練者の技能伝承と生産性向上を、このシステムによって実現するということでもあります。

内容、特徴、効果とありますが、主な内容の一つですけれど、技能動作解析は、GPS カメラや、センサーを熟練技術者に取り付け、その動作・行動・音声をデータ化し、それを解析し映像化を図ったりします。これは技能伝承の効果があるということでございます。

次に、インフラ通信管理でございますが、これは遠隔地から現場の生産管理を実施、効率化を図るということ。遠隔地からでも現場の状況が見えることで、生産性の向上につながるということでもあります。

なお、この技術につきましては、国土交通省様が進める、建設現場の生産性を飛躍的に向上するための革新的技術の導入・活用に関するプロジェクトがございますが、それに採択をされております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

2億5,000万円、このシステムには使っておりますが、大半は国交省さんからの補助金で賄っているということでもあります。

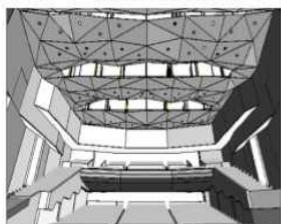
投資計画 技術・システム ③



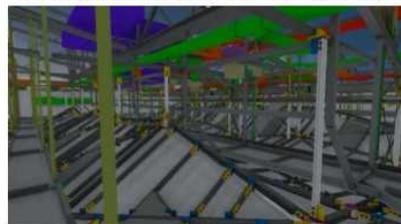
BIM・CIM活用

業務の効率化のために平面を立体化するBIMやCIMを積極的に導入しています。設計、施工計画、施工管理段階での活用を推進しています。

○複雑な天井を有する建物を3Dスキャナにてデータを取り、改修の施工手順や施工性を確認（BIM）

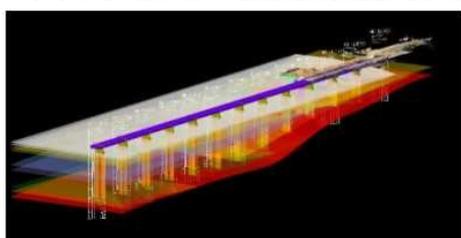


ホール全体図



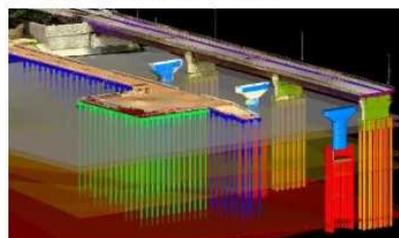
ホール天井内図

○3Dスキャナからのデータを画像化し地中の状況把握や工程管理に使用（CIM）



全体図

国道橋脚の杭等を3D化



地中の杭の状況

10

続きまして、10ページをご覧ください。これも技術・システムの一つでございますが、BIM・CIMの活用でございます。

これは、業務の効率化のために平面を立体化するシステムでございますが、設計や施工計画、あるいは施工管理にこれを活用しております。

二つ、上段と下段に絵を付けておりますが、上段はホールの改修工事でございます。複雑な天井を有する建物でございますが、こういったBIMを活用して改修の施工手順ですとか、施工性を確認しております。

下段は土木の橋脚の工事でございますが、これも3Dスキャナからのデータを画像化して、地中の状況把握ですとか、工程の管理に活用しております。

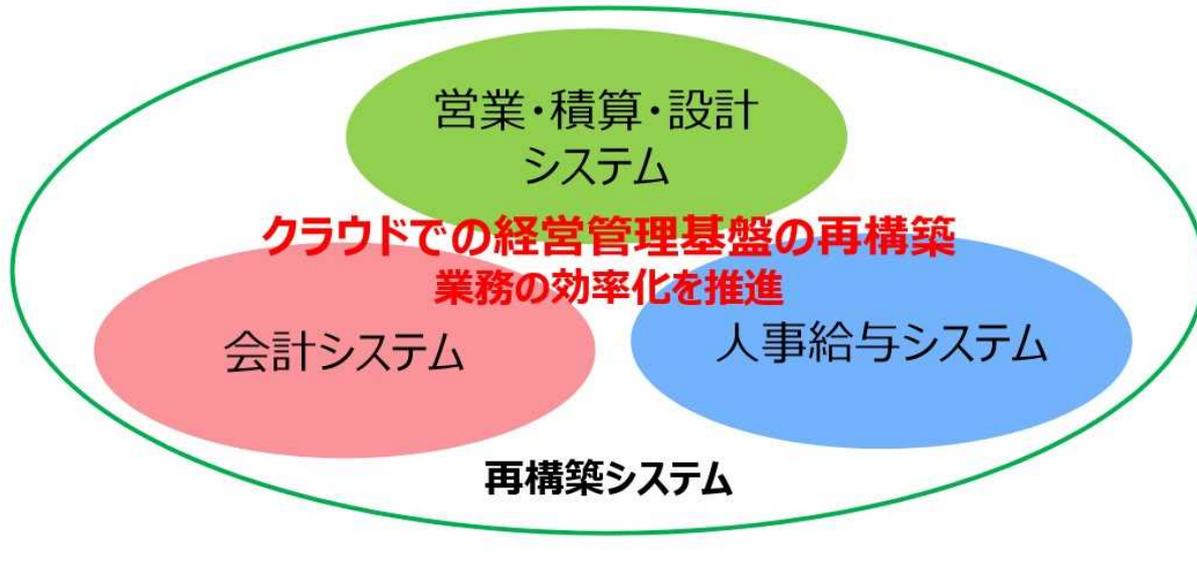
サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



基幹システムの再構築

営業・積算・設計、会計、人事給与システムの完全クラウド化
 管理部門における様々な基幹システムの更新



11

続きまして、11 ページをご覧ください。技術・システムの一つですが、基幹システムの再構築をいたしました。

その絵にございますように、営業・積算・設計システム、会計システム、人事給与システムの完全クラウド化を図りました。クラウドでの経営管理基盤の再構築を目指しました。これによって業務の効率化を図れるということでもあります。

実は、20年前からシステムを使っておりましたが、古くなったということで、この中期3カ年計画の間に新しいものにしようということで動いておりました。今年度完成をいたします。

たまたま新型コロナウイルス感染症の影響で在宅等々が必要になったわけですが、このシステムがあったおかげで在宅もスムーズにできたということもございます。また今まで自社でサーバーを管理しておりましたが、クラウド化でそれも要らなくなり、コストダウンも図れるということでもあります。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

海外事業 強化	
○子会社取得	
名 称	SINGAPORE PAINTS & CONTRACTOR PTE. LTD.
所 在 地	シンガポール
事 業 内 容	建物塗装・修繕工事請負業
議 決 権 所 有 割 合	2018年10月 80% 株式取得 2023年10月 20% 株式取得
買 収 理 由	ASEAN地域でのリニューアル事業展開
○タイ王国における老朽化高速道路・橋梁のメンテナンス事業への取り組み	
繊維シートを使用し、タイ王国の老朽化した高速道路や橋梁のメンテナンス事業への取り組みをしています。 近年タイ王国における公共インフラ投資は著しく成長し、それに伴うメンテナンス事業の需要も高まってきています。当社のリニューアル事業の強化、ASEAN地域での事業拡大の一環として取り組んでいます。	

続きまして、12 ページをご覧ください。新領域の資金投入としては、海外事業の強化ということで、子会社を取得しました。

シンガポールの外壁塗装を施業する会社を、約5億円でM&Aをしたということでございます。われわれとしては、ASEANでリニューアルを強めていこうと考えており、その先駆けでございます。引き続き、そういった業態のM&Aについては考えていこうと思っておりますが、これも繰り返しますが、今の状況ではなかなか話が前に進んでいかないということでもあります。

それから、下に、タイにおける老朽化高速道路・橋梁のメンテナンス事業への取り組みについてです。リニューアルの一つでございますが、補強、メンテナンスに使用します繊維シートで高速道路や橋梁を直そうという、取り組みをしております。ASEANでのリニューアル事業拡大の一環として、これも今、前に進めておるところであります。

サポート

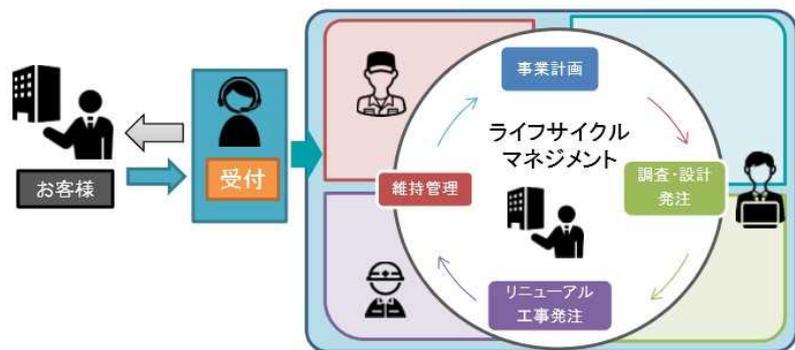
日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

リニューアル事業のブランディング

- 地球環境時代にふさわしい、人・環境を重視した
新たなリニューアルブランドの立上げ
(2021年4月 発表予定)



- リニューアルサービスの向上
受付窓口の一本化
ライフサイクルサービス強化



13

続きまして、13 ページをご覧ください。新分野の一つとしてリニューアル事業のブランディングを進めています。

上の丸、人・環境を重視した新たなリニューアルブランドについてですが、健康や、あるいは自然素材の活用、あるいは自然エネルギーの利用による、省エネに着目した新たなブランドを、来年の4月に発表をする予定でございます。

併せて、下にありますが、リニューアルサービスの向上、受付窓口の一本化を図ります。ブランドを立ち上げるだけではなくて、営業体制も整えようということで、分散していた窓口に対するいろいろな問い合わせを一本化するということでございます。

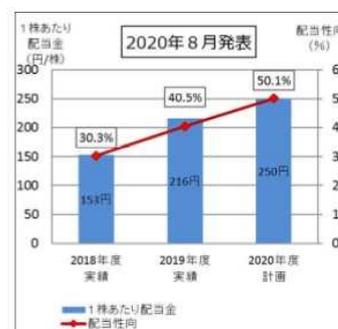
右に、表がありますけれど、受付からリニューアルや、維持管理の問い合わせを受けて、事業計画を作成、発注いただければその後調査・設計をへて、施工します。そういったサイクルを回していこうということでございます。

先ほど申し上げましたが、実際お客様に見ていただくために、このブランドによる改築を今進めておりますので、そういったことで10億円を投入することになります。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

配当金 推移



自己株式取得と消却について

- ・取得株式数 313,600株
- ・取得価額 999,933,700円
- ・取得期間 2018年11月12日 より 2019年1月16日
- ・消却株数 430,000株
(消却前の発行済株式総数に対する割合 5.05%)
- ・消却日 2019年5月31日
- ・発行済株式総数
消却前:8,508,629株 消却後:8,078,629株

続きまして、14 ページをご覧ください。株主様への還元です。

弊社は還元につきましては、配当性向を一番重要な施策と考えております。

上に棒グラフが三つございますが、左端が今の中期3カ年計画を発表した時点、2018年5月に発表した内容でございます。真ん中が、この3カ年計画1年経過した時点、2019年5月に発表した内容でございます。ご覧のように配当性向は2018年5月の時点より増やしまして、当然配当金も増えております。

ちなみに、この時点では2018年度は実績値としておりますが、153円は、当初の発表時点より53円増配させていただいたということでもあります。

右端が、3カ年計画で2年経過した時点で発表したものであります。配当性向は変えておりません。ただ、2019年度、真ん中の棒グラフでございますけど、実績で216円ございましたので、2019年5月の計画値よりは8円増配しております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

ただ、3年目の今期でございますが、新型コロナウイルス感染症の影響で最終利益の計画も減らすことになりましたので、配当性向は50%でございますが、計画292円を250円、42円減らすということになっております。

それと、左下に自己株式取得と消却について記載しております。上が自己株式の取得でございますが、これは2018年11月から、おおよそ10億円の自己株取得を実施いたしました。それから、その下に、これは2019年5月に43万株の自己株式の消却を実施いたしました。現在、ほとんど自己株式の所有はしておりません。

コーポレート・ガバナンス体制



コーポレート・ガバナンスのさらなる強化	
取締役会の構成	<ul style="list-style-type: none"> 社外取締役の割合 1/3 (2020年6月開催株主総会后より) うち女性社外取締役 1名
監査役会の構成	<ul style="list-style-type: none"> 社外監査役の割合 3/4 (2020年6月開催株主総会后より)
取締役会の実効性の分析及び評価	<ul style="list-style-type: none"> 外部機関を活用し実施 (2019年度より)
指名・報酬委員会の運営	<ul style="list-style-type: none"> 両委員会の委員長 社外取締役 社外取締役の割合 過半数 開催日数 (2018年度 7回、2019年度 9回、2020年度 4回)
IRの強化	<ul style="list-style-type: none"> 機関投資家向け説明会 (年2回実施) 個人投資家向け説明会 (本年2月に初めて開催し、今後年2回実施予定)
保有株式について	<ul style="list-style-type: none"> 上場株式の保有適否判断基準 配当と工事粗利益の便益が以下を下回る場合に縮減 2019年3月期末まで 当該期末の「資本コスト (WACC)」 2020年3月期末以後 当該期末の「株主資本コスト」 (参考 2019年3月末: 全体利回り 14% > 資本コスト 5% 2020年3月末: 全体利回り 16% > 株主資本コスト 8%) 売却実績 2018年度 10億円 2019年度 1.4億円 ★政策保有株式の残高を2022年3月期末までに連結純資産の10%未満に

15

続きまして、15ページをご覧ください。コーポレート・ガバナンス体制について記載をしております。

上から申し上げます。取締役会の構成につきましては、社外取締役が3分の1を占めております。女性社外取締役が1名おります。

それから、監査役会の構成は、社外監査役が4分の3。4人中3人が社外であります。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



それから、取締役会の実効性の分析と評価でございますが、これは前年度からでございますけれど、外部機関にやっていただいております。前年度は平均よりやや上という評価を受けました。今年度もやっていただいております、来月にはその評価が出る予定でございます。

次、指名・報酬委員会でございますが、両委員会の委員長は社外取締役でございます。社外取締役の割合が過半数になっております。開催日数は、そこに記載しておるとおりでございます。

それから、IRの強化ということで、機関投資家様向けの説明会につきましては、年2回実施をしております。個人投資家様向けの説明会につきましては、今年の2月に初めて開催をしておりますが、今後年2回実施をしていきたいと思っております。

一番下、保有株式につきましては、上場株式を保有するかしないかの判断基準といたしましては、配当と工事粗利益の、これを便益と称しておりますが、便益が現在のところは、株主資本コストを下回る場合には基本的には売却しようということで、今、やっております。

その四角の下から三つ目ですが、2020年3月末、全体利回り16%、株主資本コスト8%とありますが、全体を通しては株主資本コストを上回っているということではありますが、個別では下回っているものもございますので、今申し上げたように、下回っているものにつきましては、原則売却をするということで動いております。

一番下、赤く塗っておりますが、政策保有株式の残高を来期末までには連結純資産の10%未満にするということで、既にこれは開示をしている弊社の考え方でございます。

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptasia.com



社会貢献活動 ①



浅沼組 社会貢献基本方針

私たちは、社会の一員として社会のあるべきかたちの実現のため、社員一人一人が社会的責任を自覚し、積極的に社会貢献活動を推進していきます。

2019/4 以降の協賛団体の活動報告

日本身体障害者野球連盟
全国選抜大会
2019年11月2日、3日



日本ブラインドテニス連盟
スペイン国際大会
2019年6月9日

大野選手
B1クラス男子の部優勝
大会MVP

ならどっとFM 番組
「岡本彰夫の
奈良、奥の奥」
公開収録の様子
2020年9月18日



16

続きまして、社長の浅沼から、社会貢献活動についてのご説明をさせていただきます。

浅沼：資料 16 ページをご覧ください。弊社、浅沼組は、社会貢献基本方針の下、さまざまな分野において社会貢献活動を推進しております。今年はコロナ禍の中、さまざまな活動が制限され、各スポーツにおいても大会等が中止になりましたので、昨年における活動内容についてご説明させていただきます。

障害者スポーツ団体の日本身体障害者野球連盟と、日本ブラインドテニス連盟に協賛しています。身体障害者野球においては、兵庫県豊岡において、全国選抜大会が開催され、熱戦が繰り広げられました。掲載は、昨年の 11 月の大会の様子です。ブラインドテニスは日本発祥のスポーツで、現在世界各国で行われるようになっております。スペインで世界大会が行われ、B1 クラス男子の部で大野選手が優勝を飾っています。

次に、ならどっと FM は、奈良市の小さな地域限定の FM 局です。FM 局は、災害時における地域コミュニティの構築等、重要な役割を担っています。その中で、元春日大社の権宮司である岡本彰夫先生がメインパーソナリティーを務める、岡本彰夫の奈良、奥の奥、という番組の提供を行っております。奈良の歴史、文化の発信の一助、地域防災活動の手助けになればと考えております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



その他の活動



建築学生ワークショップ協賛・協力

建築や環境、デザインを専攻する学生を対象にした地域滞在型体験講座への協賛と講師の派遣を2016/9から継続しています。
写真は2020/9月に東大寺で開催されたときの様子です。



17

次に、17 ページをご覧ください。建築学生のワークショップに協賛・協力をしています。この活動には、2016 年から、弊社の設計部から数名が同行しております。写真は、2020 年 9 月 15 日から 21 日にかけて行われました、東大寺でのワークショップの様子になります。

以上、今後も社会の一員としてさまざまな活動に取り組みたいと考えています。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

質疑応答

司会：それでは、この後は質疑応答の時間に入らせていただきます。

質問のある方は、挙手をしてご発言をいただきたいと思います。発言に際しましては、マイクをお持ちしますので、マイクでのご発言、よろしくお願いいたします。

なお、この説明会は質疑応答部分も含めまして全文を書き起こして公開の予定でございます。従いまして、質問の際、会社名、氏名を名乗られた場合は、そのまま公開でございますので、よろしくお願いいたします。もし匿名を希望される場合は、質問の際、氏名を名乗らないようによろしくお願いいたします。

それでは、質問のある方、いかがでしょうか。

マツハシ：ストラテジックキャピタルのマツハシと申します。スライドの7ページ目のところについて、関連してお尋ねします。

資金投入計画のところが書いてあるかと思うんですけれども、御社はネットキャッシュがずっと減り続けている、ということであります。コロナの影響等で100億円の協力会社への支払の現金化が145億円になったという説明がありました。

質問は、今後もさらにその現金化を進めていくおつもりがあるのかというところで、ネットキャッシュがこれからも減ってってしまうのかを聞きたいと思います。現金化比率が100%になったことで、それよりも支払の現金化をすることは不可能だと思うんですけれども、ネットキャッシュがこれからどう推移していくのか、イメージを教えてください。

山腰：支払の現金化は、今おっしゃったように、100%にしておりますので、これ以上の現金化はあり得ないということであります。ネットキャッシュにつきましては、いわゆる預金残高ではよく世間で言われている水準、あるべき水準、月商の2カ月程度かなと考えております。

一方、借入は、連結で110億円程度、個別で80億円程度ございますが、これについては今の段階では増える予定はない、ということであります。以上です。

マツハシ：質問を続けます。スライドの15ページ目のところで、保有株式について、赤い星で書いてあるところなんですけれども、連結純資産の10%未満に残高をしますと書いてあります。こ

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



れから年平均すると 20 億円弱とか、多分それぐらいになるかと思うんですけども、その売却の手取金については、株主還元に使っていただきたいと思います。

質問は、この保有株式の売却の手取金について、例えば特別配当で株主還元を使うのでしょうか。

山腰：そういったお話について、この場で何か申し上げることはできません。ご意見としてお承りいたします。以上です。

司会：ありがとうございました。他にご質問はいかがでございましょうか。

ナカヤマ：大和アセット、ナカヤマです。いつもお世話になっています。私からも数点あります。

まず 1 点目は、少しフライング気味な質問で申し訳ないんですけど。次期中計の考え方を整理する上で、現中計においては、御社は財務体力を強化していくという思いもあったが故に、自己資本比率の目標を掲げられていたと理解しています。

ここまでの取り組みの成果もあって、目指されていた自己資本比率 40%台は今年クリアされると。この 40%台というのは、もう清水建設さんのそれよりも高い水準になっていて。あらためて今後中期的に考えていったときに、次、この自己資本比率に対してのこの考え方が、どういったものになっていくのか。

もう既に十分にこの健全性が御社の中でもあると見ていらっしゃるのか、いや、まだまだ、その財務健全性を高めていきたいという思いをお持ちなのか、その点について、現状の基礎的な考え方を教えてください。まずそれが 1 点目になります。

山腰：おっしゃったように、この中計で自己資本比率 40%台ということは、ほぼ達成できる見込みであります。次の中計につきましては、来年の 4 月 1 日から始まりますが、そこで自己資本比率についても、こういう考え方でやるということは発表したいと思います。

40%という比率は、これも一般的なことなのかもしれませんが、健全性としては、まずまずの指標だと、比率だと思っております。以上です。

ナカヤマ：ありがとうございます。弊社において、御社の企業価値創造をしているかどうかという試算の中で、弊社の中でも WACC を使わせていただいているところがあります。なので、ここからさらに健全性が高まっていく形になってしまうと、少し目標株価の設定も、この算定の仕方が変わってくる可能性がありますので、その点、お含みおきいただいた上で、次の中期計画の中で、いいメッセージが出てくることを期待しています。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

もう一つは、次の中期計画における資金の活用の仕方について、ぜひお伺いしたいと思っています。

私のほうでは、御社がさらにこの評価をされるためには、当然還元も非常に重要なテーマではあると思うんですけど。これまで投資されていたこの資金、もしくは今後投下される資金をもって、その業界の中で御社の成長率、収益率が、やはりアウトパフォームするようなアウトプットが出てくることを非常に期待しているところがございます。

あらためて、現中期計画の中で投下された資金を振り返って見られたときに、こういったご成果だと今この社内の中で総括されているのかをお伺いした上で、それを踏まえて、次期中期計画の中では資金投下の考え方、主にその成長であったり、事業効率に対しての資金投下の精度の向上に向けて、こういったことを変化させていこうとされているのか。そこについても可能な範囲でヒントを教えていただければ助かります。

山腰：今、ご説明申し上げましたように、この中計では技術システム、あるいは新領域について目標の資金投入ができなかったということもございまして。次の中計において、今申し上げた技術システム、あるいは新領域についての投入は引き続き継続する、ということで考えております。

WACC 等については、来年4月以降に発表する新しい計画をご覧いただければと思います。効果につきましては、いろいろ考え方はあると思うんですけど、その資金投入に対して、例えば税引き後の営業利益がどれくらい増えるのかと。いわゆる ROIC に似た考え方がございますが、それが資本コストを上回るのかというようなのを一つの目線に置いて、資金投入については、特に今申し上げた分野で引き続き継続していきたいと思っております。以上です。

ナカヤマ：ありがとうございます。計画された資金が未達だったことは、私からすると全くネガティブではなくて。こうした形で、御社がしっかり ROIC 管理をされている中で結果未達になることは、すごく指標がワークしているという目線にも立って、われわれは評価させていただいています。

ただ、一方で、もしよろしければなんですけど、可能な範囲で、こうした資金投入の結果こういった芽が出てきています、ということについて。小粒でも全然構わないので、そのアウトプットをモニタリングできるような、期待させていただけるような開示だったり、説明をしていただけると、より御社のこうした資金投入に対して、われわれは前向きに応援させていただきやすくなりますので。今後について可能であれば、そういった開示も含めて考えていただけると助かります。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



3点目です。こちらはどっちかというお願いになるんですけど、もうご案内のとおり、われわれのこの投資の世界において、昨今この ESG 投資に対しての資金の流れが、より顕著になってきていると感じています。恐らく、多かれ少なかれ御社でもそういった考え方があるんだと思います。

やはりこの ESG 投資のユニバースに入ってくるためには、この ESG のお考え方は、より洗練された形である必要がありますし、可能であれば、その事業機会につながるような ESG 戦略が必要だと思っています。

現状において、御社の ESG のこの開示情報等を見させていただくと、一部そうした部分もあると理解はしている一方で、やはり従前どおりの CSR の延長である部分も非常に多いと考えているところがあります。

なので、こうした御社を取り巻く投資環境も大きく変化してきている中において、業界がまだそこに対して先進的ではない中で、一方、御社が進んでいただいて、ESG 投資のマネーを呼び込むような、企業価値向上に資するような開示であったり、戦略上の取り込みを次期中計の中で織り込んでいただくと、われわれからすると、より御社のことを前向きに見やすくなりますので。可能であれば、そういった観点も含めて、中期計画の作り込みをお願いしたいと思います。以上です。

司会：他にご質問はいかがでございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは以上をもちまして、本日の決算説明会は終了でございます。どうもお疲れさまでございました。ありがとうございました。

[了]

脚注

1. 音声不明瞭な箇所については[音声不明瞭]と記載

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、当社は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。さらに、利用者が当社から直接又は間接に本サービスに関する情報を得た場合であっても、当社は利用者に対し本規約において規定されている内容を超えて如何なる保証も行うものではありません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて会員自身の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者自身が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による本規約に基づく利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して会員が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com